



丸火自然公園のようす

野 鳥

四季を通して

いつでもこの公園で姿が見られる鳥は、ハシブトガラス、ハシボソガラス、シジュウカラ、ホウジロ、ホウアカ、キジバト、エナガ、ヒヨドリ、アカゲラ、アオジなどです。しかし、これらの鳥のなかには、年によってまったく姿を見ることのできない鳥もあります。

また、最近、ゴルフ場が近くにできたためなのか、ムクドリがたいへん増えています。

野鳥は、わたしたちに四季の移り変わりを教えてくれるほか、自然のわずかな変化にも反応を示し、「自然を監視（かんし）する。」役目も果たしてくれています。



アオジ



ムクドリ



ヒヨドリ

野鳥に愛の手を

「メボソムシクイ」というスズメぐらいの小鳥がいます。この鳥は、ひなを育てるとき、一回に5匹の虫を捕え、一日に200回から300回も巣に運んできます。捕える虫の大部分が「ガ」の幼虫です。

普通「ガ」が、成虫になる割合は、産みつけられたタマゴの1割以内だといわれています。もし、このような小鳥がいなかったらどうなるでしょう。

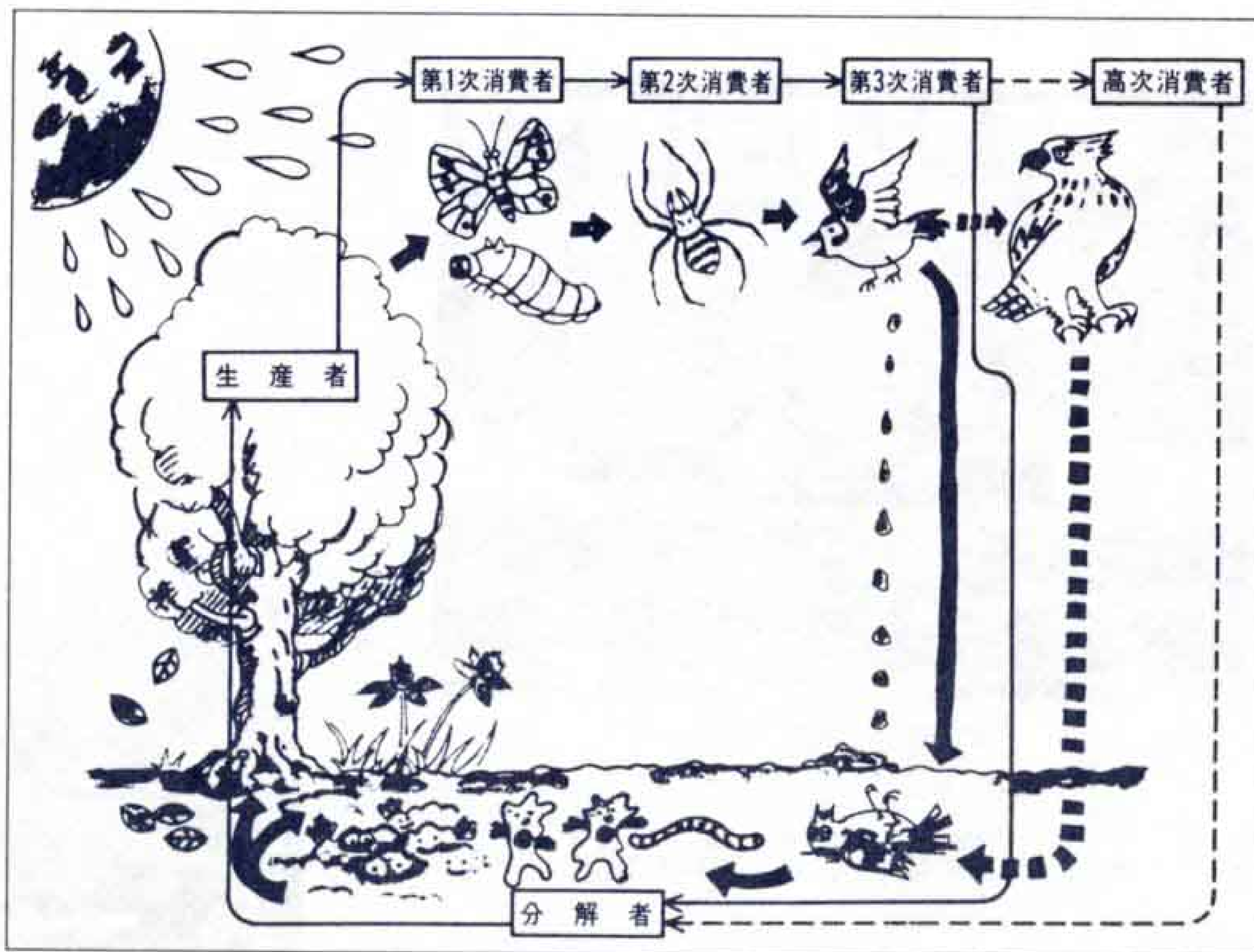
タマゴからかえった幼虫は、葉を食いあらし、たちまち木を枯らしてしまいます。自然の世界では、このように「食う・食われる」というつながりによって、つりがあうまくとれているのです。

こうした自然の世界のつながりや、つりがあいがくずれたならば、自然の一員である人間の生活にも、大きな影響を受けることになるわけです。

野鳥に愛の手をさしのべて、わたしたちとともに生きていくことを考えましょう。

自然のつりあい

・緑の草木（植物）……………生産者
 ・植物の葉を食べる昆虫……………第一次消費者
 ・昆虫を食べるクモやダニ……………第二次消費者
 ・クモやダニを食べる鳥……………第三次消費者
 ・動物の死がいやフンを食べる土のなかの虫カビ……………分解者



22回にわたり「ふじあしたかの自然」について紹介してまいりましたが、今回をもちまして終了させていただきます。

ただきます。自然保護についてのご意見・ご要望は、市環境保全課へ ☎ 51-0123 内線 562

表紙のことば

「先生、こんなに大きいサツマイモがあったヨ……と、ご気嫌の園児たち。」

「収穫の秋」をむかえた市立浜幼稚園は、このほど近くの畑で年長組80人と先生が、いっしょになってイモ掘りを行いました。

手足や顔まで土まみれになって、園児たちは、馴れない手つきで手シャベルをもって土を掘りおこすと、中から大きいおイモがゴロリ、ゴロリ出てきて思わずニッコリ。万歳する子など、楽しい思い出深いイモ掘りの一日でした。